

ふるさと講座 歴史系のお知らせ

「マンモスゾウ臼歯化石」レプリカ作り

当館所蔵の貴重な資料、マンモスゾウ臼歯化石のレプリカ作りを行います。型を作成し、石膏を流し込み、整形・着色する本格的なものです。ぜひ、ご参加ください。

●日 時 ・平成22年6月23日（水）

午後7時～9時

①お話ーマンモスゾウ臼歯化石について

②実技ーシリコン型作成とアンモナイト
レプリカ作り

・平成22年6月24日（木）

午後7時～9時

③実技ーマンモスゾウ臼歯化石レプリカ作り

●場 所 別海町郷土資料館・研究室

●講 師 別海町郷土資料館 主査 石渡 一人

●定 員 大人6名限定（2日間参加出来る方）

●申込方法 電話にて氏名・電話番号を6月22日（火）までにご連絡ください。



2003年に野付半島沖で発見された「エキタラウス標本」、年代測定では4万3千年前という数値が出ました。（左下顎第一大臼歯）今回はこの標本のレプリカ作りを行います。

ふるさと講座・自然系

「シギ・チドリ観察会」の様子

5月15日（土）17人の参加者により、ふるさと講座・自然系の第1回目が開催されました。講師の藤井薫氏（上西春別中学校教諭）のお話を聞いた後、今回は、観察だけではなく、5班にわかれ、代表的な5種類のシギ・チドリをカウントするという趣向をとり観察会を実施しました。このデータは、東京にあるバードリサーチに送り正式な記録として取り扱うとのことで、必死に双眼鏡を覗き観察する姿が見られました。

観察の結果、キョウジョシギ345羽、キアシシギ107羽、トウネン81羽、ハマシギ20羽、メダイチドリ3羽が確認されました。その他、野付半島では初確認のハジロコチドリが姿を現し参加者を喜ばせました。



近世の別海を探る 「西別川河口から南、風連湖内」～その4～

フシコトウブト

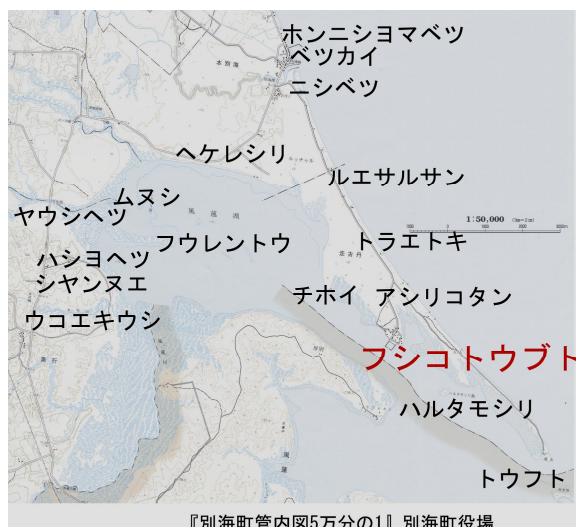
文献史料の標記は、「フシコトウブト」です。

○地名の由来

☆〔フシコトウブト〕

「古 沼入口」

『丙寅慶応二年正月吉日 万覚帳 安政六未年 子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)



○地勢・建物など

幕府再直轄時代

安政2年(1855)～慶応3年(1867)

・「字古トウフトーアツケシ出張場壺ヶ所 長サ三百間 横八拾間 是は願之上當午年より新規出稼鮭場に相成申候」

『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政5年(1858)



・「ホロモシリ鮭漁出張 フシコトウブト茅居小

家 壺棟 梁間三間 桁行六間 茅蔵 壺棟 梁間三間 桁行八間」

『万延元年仙台様江御引渡諸書付綴込式冊之内子モロ会処控写』加賀伝蔵 万延元年(1860)

加賀伝蔵の地名解では、古い沼の入口とあり、かつての風蓮湖の入口であったことが伺えます。現在の地形を見てもそこから、長い年月を経て、砂嘴が伸びていった様子が読み取れます。ここには、安政5年(1858)から根室の幌茂尻からの鮭出張漁のための施設があったようです。

別海町郷土資料館だより No.131

発行日 平成22年6月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

「マンモスゾウ臼歯化石レプリカ作り」は、今年度新たな試みとしてはじめて見ます。レプリカ作りを通して、普段見ることのない、ゾウの歯の構造などがわかるかと思います。同時に古代の別海町を歩き回っていたかと思うと、わくわくするのは私だけでしょうか？ (K.I)

